

齒病

〔異疾草紙〕宮こに女あり、みめかたちかみすがた、あるべかしかりければ、人ざうじにつかひけり、よそに見るおとこ、ろをつくしけれども、いきのあまり、くさくて、ちかづきよりぬれば、はなをふさぎてにげぬ、たゞうちゐたるにも、かたわらによる人は、くさくたえがたかりけり、

〔醫心方<sup>五</sup>〕治<sup>レ</sup>牙齒痛方第六十六

病源論云、齒牙痛者、是牙齒相引痛、牙齒是骨之所終、髓之所養、若髓氣不足、陽明脈虛不能榮於牙齒、爲風冷所傷、故疼痛也、

〔醫心方<sup>五</sup>〕治<sup>レ</sup>風齒痛方第五十七

病源論云、手陽明之支入於齒、齒是骨之所終、髓之所養、若風冷客於經絡、傷於骨髓、冷氣入齒根、則痛齒、

〔異疾草紙〕おとこありけり、もとよりくちのうちは、み。な。ゆ。る。ぎ。て。す。こ。し。も。こ。わ。き。も。の。な。ど。は。か。み。わ。る。に。お。よ。ば。ず。な。ま。じ。ゐ。に。お。ち。ぬ。く。る。こ。と。は。な。く。て。も。の。く。ふ。時。に。さ。は。り。て。た。え。が。た。か。り。け。り、

〔多聞院日記〕天文三年八月十日、本坊云、齒ヲ痛ニハ、毎朝念佛十返申、テヲウチ、堂ノ阿彌陀ニ回向スレバ、堅ク能ク成也、

〔大猷院殿御實紀<sup>三十一</sup>〕寛永十三年六月十六日、嘉定御祝舊規のごとし、御牙痛によて、その所にのぞみ給はず、

齒音離

齒衄

〔病名彙解<sup>六</sup>〕齒音離<sup>六</sup>。病源ニ云、齒音離ハ、是風冷齒斷ノ間ニ客トシテ、齒斷ヲシテ落サシメテ膿出、其齒則疎ス、語トキ風過ルノ聲アリ、世ニ齒音離ト云、此レ齒ノ間ヨリ語聲ノモル、コトナリ、

〔病名彙解<sup>六</sup>〕齒衄<sup>六</sup>。牙宣ノコトナリ、牙齒宣露シテ血ノ出ルコトナリ、風壅、腎虛ノ二證アリ、

〔牛山方考<sup>中</sup>〕一齒齲黒ク腐爛シ、血ヲ出ス症アリ、或ハ熱病ノ後、或ハ消渴ノ病、寒冷ノ血藥ヲ服ス